

オハイオ州・フィンドレー大学 奨学生レポート 12月

アメリカでの12月は、1年の中でも最も大きな行事の一つであるクリスマスに向けて、ワクワクさせられるような雰囲気があちらこちらに広がっています。誰しもがどこかしら楽しそうで、街中ではイルミネーションが見られ、クリスマスツリーが飾られ、お店ではセールがあり、日本の“師走”の様子とは少し違った温かさが漂っています。

Finals (期末試験)

12月12日～16日の1週間は期末テスト週間でした。どのクラスでも、最終レポートやプレゼンテーション、テストなどが行われ、学生達はそれに向けて一生懸命に取り組みます。テストに向けた勉強の姿勢は、日本の学生のそれとさして変わったところはなく、少し懐かしい気分を味わいながら、私もレポートやテストに取り組みました。

私が面白いと感じたことは、アメリカ人の学生はテストが終わると一刻も早く実家に帰省するところです。8月のレポートに書いたように、ほぼ全ての学生がキャンパス内、もしくはキャンパスの近くに住んでおり、家族とは離れて暮らしています。大学は勉強するところであり、それが済んでしまえば他にすることがないかのごとく、実家に帰ってしまうので、駐車場の車はほとんどなくなり、キャンパス内はとても静かで人気(ひとけ)がありませんでした。私にとって、これはとても新鮮でした。日本での学生生活は個人にもよると思いますが、どちらかというとも休みの間でも、友達と過ごす時間が多いように感じます。アメリカの学生は家族との時間も大切にしており、特に大きなイベント時には家族で過ごす場合が多いようです。

Winter Break (冬休み)

12月17日～1月8日の間は冬休みでした。私は今回、アメリカの中でおおまかに3つの地を訪ね、多様なアメリカ文化を体感してきました。

まず最初に訪れたのはテネシー州にあるナシュビルというところです。昨年(2010年)、私の従兄弟の家に、埼玉大学に通うアメリカ人の留学生がホームステイをしていたことがあり、その友達と家族を訪ねに行きました。チェスやボードゲーム、カードゲームなど、アメリカのゲームらしい、頭を働かせなければならないゲームをたくさん学びました。



ルミキューブというゲーム

次に、ペンシルバニア州のメカクスバーグにいる友達を訪ねました。高校2年生の時にさいたま市のプログラムで、ペンシルバニア州のピッツバーグを訪問した際仲良くなった友達と、今でも連絡を取り合っており、お宅にお邪魔させていただきました。クリスマスの期間を一緒に過ごさせていただき、アメリカの伝統的なクリスマスの料理(ハムなど)を食べたり、クリスマスツリーの下に置いてあるプレゼントを開けたりして、アメリカでの初めてのクリスマスを楽しみました。



クリスマスの食事



クリスマスの食卓

最後に訪れたのはニューヨークシティです。私の家族(両親、姉夫婦、親戚:計6名)が日本からやってきて、かの有名なタイムズスクエアでのカウントダウン(年越し)を楽しみました。世界各国から数十万人が集まり、12月31日、街はお祭り騒ぎで、交通規制も厳しく、道を歩くのも大変なくらいでしたが、刺激的な体験となりました。そして、世界中の人々をこんなにも魅了できる都市ニューヨーク、そしてアメリカの偉大さを感じました。



New York City, Times Square でのカウントダウン

ところで、冬休み中に新しく学んだスラング(俗語)をフィンドレーに帰ってから友達に聞いてみると、「聞いたことがない。」「知らない。」という単語や表現がいくつかありました。アメリカは広く、地域によって、同じ英語でも使う単語や表現が違い、非常に面白いと感じました。言語だけでなく、その土地によって、同じ国とは思えないくらい雰囲気が変わります。まだ行ったことのない州もぜひ訪れてみたいと思いました。

また、市や県が与えてくださった国際交流のチャンスは、個人間ではありますが、途切れることなく、しっかりと未来につながっており、私はこのような事業の必要性を強く感じています。これからも、県民の皆さんにもっともっと多くのチャンスが増えればと思います。